

適正な田植作業の実践と、地力に応じた基肥施用、的確な水管理により、初期生育を確保しましょう！

水不足になると葉ヤケが発生するので注意！かん水ムラが無いかな確認しましょう。

- <令和8年産の重点対策>
- ①5/15 中心の田植えに合わせた育苗作業
 - ②苗箱施薬の徹底による病害虫の防除
 - ③初期茎数の確保
 - ④生育ステージに応じた水管理
 - ⑤追加穂肥の施用
 - ⑥本田防除の徹底
(早生3回、中生・晩生2回)
 - ⑦適期刈取の実施
 - ⑧土づくりの励行

1 育苗ハウスの温度管理

参照ページ:p24



- ・換気を徹底し、ハウス内の温度が25℃以上にならないようにしましょう。
- ・搬出後1週間頃からは昼夜ともにハウスのすそを開けて、外気に慣らしましょう。

2 田植作業

参照ページ:p27

初期茎数の確保

適切な栽植株数、植付本数、植付深さで確実に植え付け、初期茎数を確保しましょう。

- ・田植前に植付爪の状態をチェックし、摩耗している場合は交換しましょう。
- ・強風など天気の悪い日の田植えを避けましょう。

表1 田植機の設定

項目	設定	留意点
栽植株数	70株/坪 株間の目安:15~16cm 2m間に12~13株	作業速度や土壌条件により増減するため、試し植えをして確認・再調整する
植付本数	3~4本	掻き取り量が「標準」では多くなりやすいため、「やや少なめ」とする
植付深さ	3cm (図1参照)	「標準」ではやや深めになるため、「やや浅め」とする

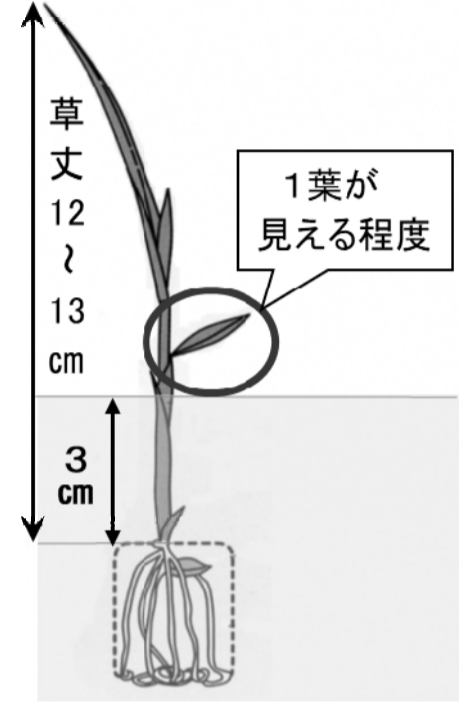


図1 適正な植付深さ

3 基肥施用

参照ページ:p25~27

- ・基肥量は、土壌区分や圃場条件に応じて適正量を施肥し、初期生育を確保しましょう(表2、3、4)。
- ・近年、高温傾向にあることから、コシヒカリの基肥一発栽培の基肥施用量の目安を3kg/10a程度増肥しています。
- ・作業中は、肥料が落ちていることや、使用した袋数を確認し、目標の施肥量となっているか記録しておきましょう。

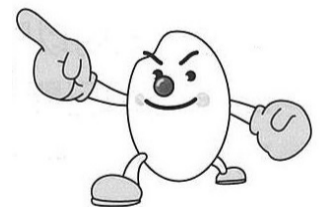
◎目標の施肥量を確実に入れるポイント

- ・田植前に施肥ロール、ブラシを点検・清掃する(特に、施肥ロール部の詰まりはコンプレッサー等で除去)。
- ・肥料袋の裏に記載してある比重を確認し、ほ場のスリップ率や田植機の特性を把握して、目盛を調整する。

表2 コシヒカリの基肥施用量の目安

土壌区分	基肥一発栽培				分施栽培	
	〈標準タイプ〉		〈省カタイプ〉		側条施肥	
	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a
沖積砂壤土 沖積壤土	Jコートコシヒカリ1号 ※	38kg	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号	45kg	基肥206 ※	32kg
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土	Jコートコシヒカリ2号 ※	33kg	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ2号	38kg		25kg
洪積粘質土		30kg		35kg		23kg

土壌区分、肥料の種類により施用量が異なります。必ず確認しましょう。



※ Jコートコシヒカリ1号、2号、基肥206は、6月下旬に「ケイ酸加里」又は「エスアイ加里らくだ」を散布してください。

表3 てんたかくの基肥施用量の目安

土壌区分	基肥一発栽培		分施栽培	
	標準タイプ		側条施肥	
	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a
沖積砂壤土 沖積壤土	エコ早生専用	40kg	基肥206	40kg
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土		35kg		35kg
洪積粘質土		30kg		30kg

表4 てんこもりの基肥施用量の目安

土壌区分	基肥一発栽培		分施栽培	
	標準タイプ		側条施肥	
	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a
沖積砂壤土 沖積壤土	LPss晩生専用	45kg	基肥206	45kg
沖積粘質土 沖積半湿田 黒ボク土		40kg		40kg
洪積粘質土		35kg		35kg

